

「びわほなみ」の収穫は6/3頃から

～子実水分30%以下を確認して遅れないように収穫を～

《本年産の特徴と適期収穫》

○播種後、気温が平年並～やや低く推移したため生育は停滞していましたが、2月以降の度重なる高温により、生育が促進されました。ただし、生育が不齊一なほ場が多くなっています。

○5月18日時点の穂の水分率から、刈り取り開始は6月初め頃からと予想されます。

○向こう1か月の気象予報では、気温は高い見込みで、今後収穫適期は予想より早まることもあります。

上記の予想を参考に、適期収穫ができるように早めの準備をお願いします。

（参考）子実水分30%以下の子実の状態
緑色が完全に消失して黄白色となり、粒が爪で
なんとか割れる時期

“収穫作業は安全確認を充分行い、事故を防ぎましょう”

《収穫作業のポイント》

1. 小麦の収穫開始は子実水分 30%以下！

麦に露がつきやすい早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。

2. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- ・ 赤かび病の発生が多い
- ・ 遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）
- ・ 倒伏の程度が大きい
- ・ 雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウなど）

3. 赤かび病被害粒は別仕分けを！

目視によるチェックを行い、赤かび病の被害粒が多く見られた場合は、別乾燥や別調製するなど仕分けを徹底してください。

4. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

湿度の高い時期の収穫のため、ムシによる品質低下や赤かび病の感染拡大を防ぐ必要^①があります。収穫した麦粒は長時間放置することは避け、速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

5. 刈り遅れに注意！ ～「びわほなみ」では特に注意！！～

刈り遅れると、容積重の低下や穂発芽の増加で品質が低下し、赤かび病の**かび毒**による汚染のリスクが高まります。

○収穫に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させます。また、大豆の播種作業を計画的に進めるためにも、排水溝を点検し、速やかに排水されるよう、溝さらえなどを徹底しましょう。